

兵庫県埋蔵文化財情報

ひょうごの 遺跡

平成23年(2011)

3月19日発行

78
号

〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中1-1-1

TEL. 079-437-5589 FAX. 079-437-5599

ホームページアドレス

<http://www.hyogo-koukohaku.jp>

兵庫県立考古博物館

新発見 兵庫県発掘調査速報 2010



朝来市池田古墳の調査風景

新発見 兵庫県発掘調査速報 2010

兵庫県立考古博物館では、平成 22 年度も播磨を始め県内の各地で発掘調査を行っています。

今年度は、2 月末現在 69 件の確認・本発掘調査がありました。その調査成果をいち早く公開するのが、企画展「兵庫県発掘調査速報」です。

本号では、これらの中から分布調査・確認調査・本発掘調査に分けて、主要な遺跡を紹介します。新発見の出土品に、あなたも祖先の歩みを感じてみませんか。

分布調査

但馬 古代の役所跡 にょうがもり 襦布ヶ森遺跡他 豊岡市日高町襦布他 奈良時代他

北近畿豊岡自動車道日高豊岡南道路建設に先立って、実施した分布調査で確認した散布地です。

対象地は稲葉川（円山川の支流）の両岸に広がる河岸段丘の地点で、奈良時代の須恵器片を採集しました。周地の襦布ヶ森遺跡とも重なり、但馬国府関連遺跡と予想できます。



分布調査風景

確認調査

摂津 古代の掘立柱建物跡 ほったてばしら 広根遺跡H地区 川辺郡猪名川町 鎌倉時代



確認調査風景

遺跡は猪名川西岸の低丘陵から、北へ張り出す斜面に立地しています。水田造成時に削平されている箇所もありましたが、概ね対象範囲には中世前半期の遺構が確認できました。

遺構として、柱穴・土坑・焼土坑・溝などを発見しています。遺物には、土師器・須恵器・瓦器・青磁などが出土しました。鎌倉時代の農村集落と考えられます。

本発掘調査を期待してください。

摂津 近世の炭焼窯 新名神No.13 地点遺跡 川辺郡猪名川町 江戸時代

狭い谷川に突き出た畑地で、江戸時代の炭焼窯を発見しました。窯の内面は、石を円形に積み上げ構築しています。また、焚口の前面も長方形に掘り込み、石組みで壁を築く堅固な作業場を造成していました。

さらに、多量の瓦の発見から、瓦葺きの屋根があったことも推測できます。

猪名川下流の地、池田で集積する茶の湯で珍重された「池田炭（菊炭）」の生産に関係した遺跡でしょう。

その他、出土品には陶磁器や鉄製品もありました。



完掘した炭焼窯跡

本発掘調査

摂津 中世の池と近世の井戸 大池ノ南遺跡 三田市西山 鎌倉時代他

今回の調査区は、三田の古地図によると武家屋敷町の北西端からその外側に位置します。調査区北部では江戸時代末期の井戸を発見し、中からは陶磁器の未製品が多量に出土しています。

中世とそれ以前の遺構には、池状遺構と柱穴・土坑があります。池跡は、一辺が4m程度の方形の大きさで、十数枚の土師器皿を一括で発見しました。柱穴は、直径20cm前後のものと直径40cmの大きさのものがあります。

前者は鎌倉時代に掘られた柱穴で、後者は平安時代以前の隣接する金心寺廃寺に関連する可能性が高いものです。



池状遺構と土師器皿出土状況

播磨 弥生時代の住居と平安時代の池 津万遺跡群 西脇市津万 弥生時代他



池状遺構と墨書土器

加古川西岸に広がる平野部微高地に立地する遺跡です。今年度の調査区では弥生時代後期の竪穴住居跡や溝、平安時代後期の池跡、そして鎌倉時代の粘土採掘坑を発見しています。

竪穴住居跡は5角形と方形の2棟で、前者は直径8.4mと大きく、主柱穴は5本で中央土坑を持っています。

池跡は、長軸9m・短軸6mの楕円形をしており、深さは約1mですり鉢状に掘り込んでいます。内部からは、土師器と須恵器の小皿・碗、箸、曲物などが出土しました。また、須恵器の碗には「井」と墨書するものがあり、井泉祭祀を行った可能性も考えられます。

粘土採掘坑は径約2mの大きさで、100基以上を確認しました。一部の坑中には、13世紀後半の捏鉢が出土池状遺構と墨書土器しています。

播磨 奈良時代の集落 大門畑瀬遺跡 西脇市黒田庄町 奈良時代他

加古川西岸の山麓から張り出す段丘上に立地する遺跡です。今年度の調査区は大きく削平を受けていたため、段丘の縁辺部に当たる箇所でのみ、奈良時代の柱穴と溝が見つかった程度です。

そのため、遺物の大半は遺構に伴わない盛土層（遺跡を削平した土）や攪乱層から出土しています。種類は弥生土器、奈良時代の土師器・須恵器などです。

その他、注目される遺物に採集品の弥生時代のサヌカイト製石器があります。



調査地全景

播磨 中世の城

豊地城跡他 小野市中谷町 室町時代



上空からの東堀全景

豊地城は依藤氏・別所氏の本城として知られ、東条城とも呼ばれました。この城跡は東条川（加古川の支流）の河岸段丘上に立地し、大規模な土塁が残っています。

本年度は城跡の東側を調査し、主郭の東を区画する堀を検出しました。堀の規模は幅6m、深さ1～2mを測り、昨年調査の西側（幅12m、深さ2.5m）に比較すると小規模だったことが判明しました。

さらに、東側の岡遺跡では豊地城直前の時期の集落が広がっており、交通の要衝に営まれた拠点集落の地に城が築かれたことも明らかにできました。

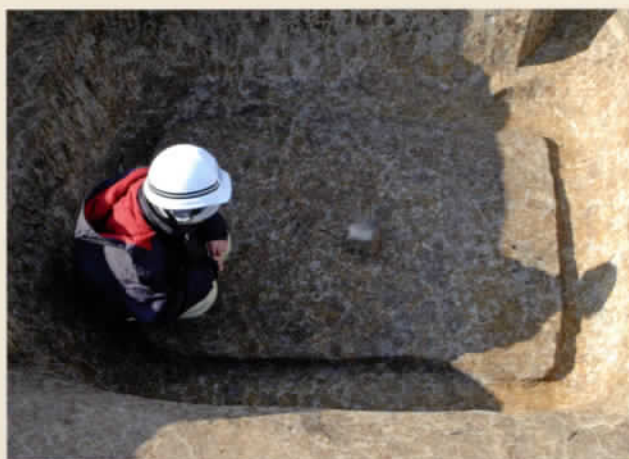
播磨 弥生時代と古墳時代のムラ

芝添遺跡 姫路市太市中 弥生時代他

芝添遺跡は、大津茂川東岸の微高地に立地する弥生時代と古墳時代の集落跡です。

今回の調査では、弥生時代後期初頭の方形竪穴遺構と土坑、古墳時代後期の水路や土坑を発見しました。

この中で注目できるのが、方形の竪穴状遺構です。大きさは、長さ2.5m、幅2.2m、深さは60cmあります。四方の壁はほぼ垂直で、底面は平坦になっていますが、何に使用されたのか明らかではありません。埋土中からは炭と共に多数の土器が出土しており、最終的にゴミ穴として利用されたようです。



方形竪穴状遺構全景

南に位置する亀田遺跡が後期初頭に衰退することから、芝添遺跡の出現は大きな意味を持っています。

播磨 弥生時代と奈良時代の集落

堂本上長堀遺跡 たつの市龍野町 弥生時代他



瓦と土器の出土状況

揖保川東岸の微高地に立地する遺跡です。住居跡などの生活痕跡は見つからず、洪水により流されたと考えられる砂質土の中に、弥生時代中期後半の土器と奈良時代の土器が多く混じっていました。

このことから、調査地点の上流側には弥生時代と奈良時代の遺跡が存在し、その遺跡の土器類が洪水で運ばれてきた可能性が高いようです。

また、奈良時代の遺物には瓦が含まれていたことから、寺院など瓦葺きの建物があったことも想定できます。

その他、平安時代末から鎌倉時代初頭の土器も少し出土しています。

播磨 中世の室の泊 室津四丁目遺跡 たつの市御津町 鎌倉時代他

三方を山に囲まれた室津、この入り江の奥まった斜面地にある遺跡です。室津の入り江は、万葉の時代から波が穏やかなことから「室の泊」と呼ばれていました。

調査では、鎌倉時代から室町時代の墓地を発見しました。土墳墓と備前焼の埋甕（室町時代）があります。土墳墓からは、小刀と銅銭・土師器の小皿が出土しました。墓地の存在から、鎌倉時代以降は隣接する寺（寂靜寺もしくは見性禪寺）の境内だったと考えられます。

その他、出土遺物には鎌倉時代から室町時代に近隣で焼かれた日常土器を始め、備前焼・京都系の土師器・肥前の石鍋、さらに中国や韓国からの輸入品である陶磁器など、各地からの製品がもたらされており、中世の港町・室津が栄えていた様子を知ることができます。



備前焼を用いた埋甕



土墳墓から出土した小刀と土師器皿

播磨 弥生時代と古墳時代のムラ

有年牟礼・井田遺跡 赤穂市有年 弥生時代他

矢野川（千種川の支流）東岸の微高地に広がる遺跡です。今年度の調査では、弥生時代中期後半と古墳時代後期末（6世紀末～7世紀初頭）の遺跡の一部分を発掘しました。

弥生時代中期後半には、調査区北側の小河川跡に多量の土器が捨てられていました。今回の発見で、この時期の集落範囲が赤穂市教育委員会の推定よりもさらに南側に拡大し、この河川が南端となる可能性ができました。

古墳時代後期末の遺構は調査区西側にあり、鍛冶工房と考えられる施設を発見しています。それらには鍛冶炉跡・掘立柱建物跡（工房関連施設）・炭や焼土の廃棄場所などがあり、多くの土器と共に薮羽口・椀形鉄滓、鍛造剥片と判断できる微細な鉄片も見つかりました。この遺跡で、農具や武器などの鉄製品を作っていたと想定できるのです。



鍛冶工房施設跡



弥生土器出土状況

淡路 弥生のムラと水田跡 よこいり 横入遺跡 淡路市志筑 しづき 弥生時代他

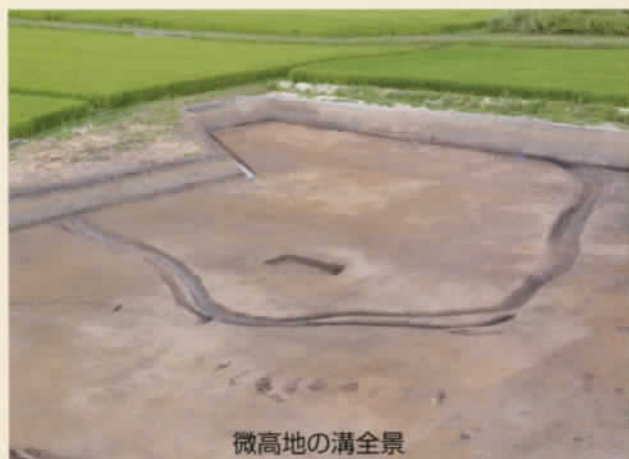
志筑川河口近く東岸の沖積地に立地する遺跡です。北側の山麓斜面には、奈良時代創建の志筑廃寺がありました。調査では、弥生時代の溝と土坑群、そして水田跡を発見しています。

弥生時代の溝は、延長 35 m を測ります。埋土中からは、中期後半（紀元前 1 世紀）の土器が出土しました。集落を囲む環濠の可能性が高い遺構です。

水田は 4 条の大畦^{おおあぜ}に区画されたもので、水田面を覆うシルト層から極めて少量ですが、前期後半から中期の土器片を確認しています。畦は下端幅 3 m、高さ 50 cm を測ります。水田 1 筆当たりの面積は、300 m²を超えると推定できます。

その他、土坑を見つけていますが、遺物はほとんど出土しませんでした。

なお、弥生時代の遺構面上層には志筑廃寺の瓦を含む奈良時代から鎌倉時代の遺物包含層があり、鎌倉時代の水田造成時に志筑廃寺が築かれた段丘部分を削り取ったことも明らかになりました。



微高地の溝全景



水田跡

但馬 古墳と中世の経塚 きょうづか 宮ノ谷古墳群 朝来市山東町 古墳時代他

与布土川（円山川の支流）西岸の急峻な尾根と斜面に、築造された古墳群です。今回の調査では、3 基の古墳と経塚 1 基を発掘しています。

古墳 3 基は、古墳時代中期後半から後期初頭（5 世紀後半～6 世紀前葉）に相次いで築かれ、埋葬施設は木棺・箱式石棺・石室状の石組みと多種に分かれていました。箱式石棺は内法が 70 cm と短く、幼児を埋葬したものと思われる。棺内足元には小型の滑石製勾玉^{かっせきせいがたま}が 1 点置かれていました。

経塚は穴を掘って経筒を納め、その周りを石室状に組み上げるものですが、土製の経筒と蓋は破片の状態で発見しました。この経塚が造られた時代は、鎌倉時代と推定しています。



石棺と小型勾玉（赤丸内）出土状況



経塚の石組みと経筒の出土状況

但馬 古墳周濠と造出 しゅうこう つくりだし 池田古墳 朝来市和田山町 古墳時代

円山川西岸の低丘陵から東に延びる緩斜面に立地し、全長 141 m を測る但馬最大の前方後円墳です。これまでの調査で、墳丘テラス・周濠と東西の渡土堤・造出や外堤を確認しています。

今回の調査でも、1 段目葺石と 2 段目葺石や、墳丘第 1 段テラス続きの円筒埴輪列、東西の造出と周濠、外堤を明らかにしました。

東側周濠と造出からは、新たに水鳥形埴輪 8 体分が出土しています。さらに、西側周濠では兵庫県内で初めての蓋形の木製立物（木製埴輪）を発見しました。

3 年間の発掘調査を通して、最大の成果は東西の渡土堤と造出部を検出したことでしょう。東造出では水鳥形埴輪、西造出にはミニチュア土器と土製模造品が出土しました。特に、水鳥形埴輪は朝来市教育委員会調査分を含め 23 体分が見つっています。



調査風景



水鳥形埴輪出土状況

播磨 駅家の南限と西限の溝 うまや 長坂寺遺跡 ちやうはんじ 明石市魚住町 奈良時代他

長坂寺遺跡は印南野台地の東南端、明石に向かって視界が開ける段丘上に立地しています。古代山陽道に沿って設けられた「駅家」の一つと目されていて、地中レーダー探査によっても、遺跡を方形に囲む輪郭線が見つっています。

今回の調査では、その輪郭の南と西を限る溝が確かめられ、奈良時代の瓦が多数出土しました。

これにより、約 80 m 四方の築地塀に囲まれた官衙的区画の存在を明らかにでき、「(仮称) 邑美駅家」の実在を裏付ける大きな手掛かりとなりました。



駅家西限の築地痕跡

特別展 木のうつわ 枝 六千年の技

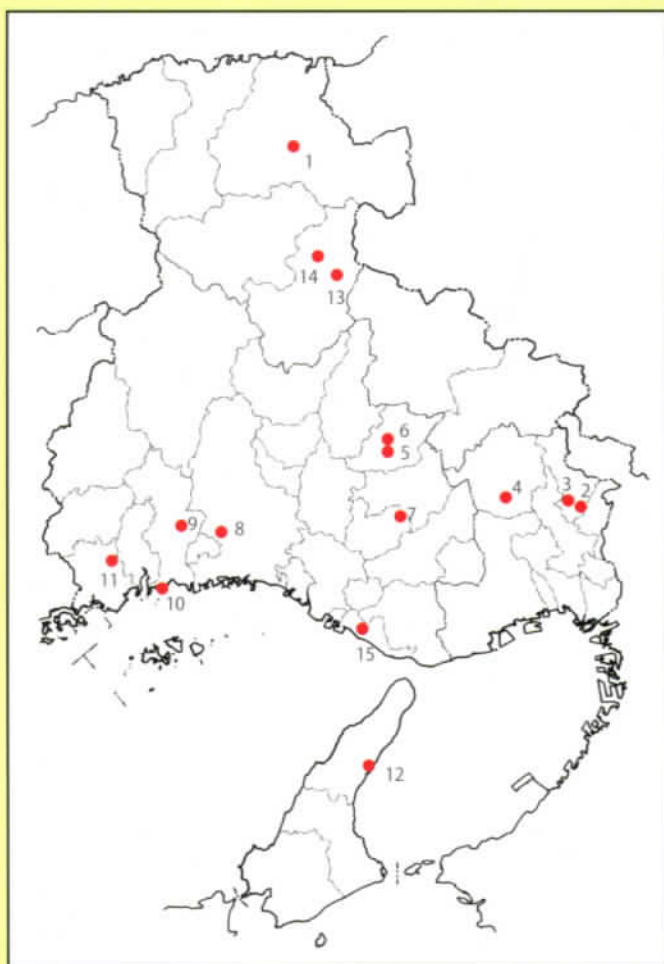


平成23年(2011)

4月23日 土 ~ 6月26日 日

- ◆観覧時間：午前9時30分～午後6時(入館は午後5時30分まで)
- ◆休館日：月曜日(ただし4月26日～5月8日までは無休)
- ◆会場：兵庫県立考古博物館特別展示室
- ◆観覧料金：大人500円(400円)大学生400円(320円)高校生250円(200円)

※1 ()内は20名以上の団体料金 ※2 小学生・中学生は無料 ※3 障害者およびその介護者へ6歳以上の方は半額



- 1 瀬布ヶ森遺跡他（豊岡市）
- 2 広根遺跡（猪名川町）
- 3 新名神No.13 地点遺跡（猪名川町）
- 4 大池ノ南遺跡（三田市）
- 5 津万遺跡群（西脇市）
- 6 大門畑瀬遺跡（西脇市）
- 7 豊地城跡（小野市）
- 8 芝添遺跡（姫路市）
- 9 堂本上長堀遺跡（たつの市）
- 10 室津四丁目遺跡（たつの市）
- 11 有年牟礼・井田遺跡（赤穂市）
- 12 横入遺跡（淡路市）
- 13 宮ノ谷古墳群（朝来市）
- 14 池田古墳（朝来市）
- 15 長坂寺遺跡（明石市）

今年度発掘調査を行った
主な遺跡の位置

企画展

兵庫県発掘調査速報

2010

公開！新発見の出土品

平成 23 年

3月19日**土** ~ 4月10日**日**

■観覧時間：9:30 ~ 17:00（入館は 16:30 まで）※4月以降は午後 6 時閉館

■休 館 日：月曜日（祝日にあたるときは翌日）

■会 場：兵庫県立考古博物館 特別展示室

■観覧料金：大 人 200 円（160 円）、大学生 150 円（120 円）、
高校生 100 円（80 円）

※（ ）内は 20 名以上の団体料金・中学生以下は無料

※障害者およびその介護者、65 才以上の方は半額

展示解説 会期中の毎日曜日 13:30 ~ 14:00

関連行事

『発掘調査報告会』

会場：当館講堂 定員 120 名 無料・当日受付

3月26日（土）13:30~16:00（受付 13:00 より）

報 告 1「横入遺跡」（淡路市）

渡辺 昇（当館学芸員）

2「有年牟礼・井田遺跡」（赤穂市）

岸本 一宏（当館学芸員）

3「池田古墳」（朝来市）

山田 清朝（当館学芸員）

4「豊地城跡」（小野市）

山上 雅弘（当館学芸員）

対 談 「平成 22 年度調査の注目遺跡、石野博信館長と調査担当者」

編 集 後 記

今年度の『発掘調査速報展』は、分布調査や確認調査をまじえ 15 遺跡を紹介しました。是非来館いただき、新発見の出土品をお楽しみください。次年度以降は、有年牟礼・井田遺跡、広根遺跡など大規模な調査が予定されています。乞う、ご期待!!

4月からの、特別展『木のうつわ 六千年の技』もよろしくお願ひします。(s.o)

